

El Hor / El Ha 作品集『シーソー』出版をめぐる一考察

松浦 恵美子

0. はじめに

El Hor、El Ha という2つの筆名を使い、1912年から1923年にかけて新聞、雑誌などへ短編散文作品を発表した女性作家¹がいる。約100点の作品が確認されている程度で、本名、生没年、経歴などは不明である。マルチナ・リュウケ Martina Lüke は「筆名を使って執筆し、そのため今日まで無名の女性作家 El Hor / El Ha の研究もまた、まだ解決がついていない」²とやっているように作家本人の特定は言うに及ばず、作品の数も確定しているとは言えない。³辛うじてパウル・ラーベ Paul Raabe が編纂した表現主義の作品目録などにそれぞれの筆名と作品名が記載されている⁴程度で、2つの筆名が1人の作家に収斂することもなく表現主義の文献にも全く取り上げられてこなかった。1991年にこの作家の2つの作品集『シーソー』Die Schaukel と『影』 Schatten が、ハルトヴィヒ・ズーアビア Hartwig Suhrbier によって1冊の本に纏められて出版された。この作品集のおかげで文学史から忘れられていた作家に光が当てられ、わずかではあるがドイツのみならず英語圏でも研究が出ている。ズーアビアは「これまでこのミステリアスな女性作家の来歴を緻密な仕事で研究した唯一の人」⁵と呼ばれている。彼の出版した作品集によって El Hor / El Ha という1人の作家の存在が確認され、研究の足掛かりが作られた功績は大きい。

El Hor / El Ha は作品集『シーソー』Die Schaukel (1913年) と『影』 Schatten (1920年) を出版したが、出版元のザトゥルン出版社 Saturn Verlag との間に『シーソー』刊行と同年に交わされた、別の題名が記された出版契約書が存在している。本稿ではこの契約書と『シーソー』との関係を明らかにし『シーソー』出版の背景を考察したい。この作家について言及する際は、他の研究者たちに倣って El Hor / El Ha と表記する。

1. 『シーソー』と『影』

ザトゥルン出版社は1911年にヘルマン・マイスター Hermann Meister と友人のヘルベルト・グロースベルガー Herbert Großberger が設立した出版社であり、表現主義の若手作家たちの散文作品集や詩集、雑誌『ザトゥルン』 Saturn などを刊行した。⁶ このほか1912年から『ザトゥルン小冊子』Die Kleinen Saturnbücher⁷ という不定期のシリーズ物を発行し、『影』はこのシリーズの44番目の作品である。一方『シーソー』はシリーズ外で別途、出版された作品集である。『影』は僅か16ページの、短時間で読み切れる廉価本として2000部、『シーソー』は蔵書版として500部製作された。『影』の挿絵は書名に相応しく、手を繋いだ女性2人の影を表現した版画で、その下に「40ペニヒ」という価格が記されている。小冊子シリーズは、オスカー・バウム Oskar Baum とマイスターとの契約書が示すように1913年当時には20ペニヒであった。第一次大戦後に本の製作費が高騰し紙の値段が1918年まで3倍になった⁸ という背景もあり、後に30ペニヒから40ペニヒへ値上がりしている。一方『シーソー』の価格は2マルク、表紙は『影』と同じグロースベルガーの挿絵が印刷されている。次章では1913年にザトゥルン出版社と El Hor / El Ha の間で取り交わされた出版契約書について述べる。

2. 作品集『マッチ』名の契約書

この契約書は他の作家たちの契約書とほぼ同様の形式を取っている。1項目では El hor (注：h は小文字) は「彼女の『マッチ』という題名で書かれた短編集の出版権」 das Verlagsrecht ihres unter dem Titel „Streichhölzer“ verfassten Skizzenbandes⁹ をマイスターに委ねる事、2項目では印刷される部数について、初版は500部、加えて100部を献本及び書評用贈呈本として製作

する事、3項目は印税支払いの時期について、4項目に本の販売価格(2.50マルク)、印税率(15%)が記されている。残りの5-7項目は出版社の売却などの際の作家の権利他、法律上の取り扱いについて書かれている。最後に出版者のマイスターの署名と「El Hor」という筆名での署名が書かれ、書名の日付と場所は前者が1913年5月29日ハイデルベルク、後者が同年6月1日ウィーンである。

1913年夏には『マッチ』ではなく『シーソー』が発売された。¹⁰ ズーアビアは彼の編纂した作品集の後書きで「彼女の最初の本は、出版社の契約書が示す様にもともと『マッチ』という名前になる筈であった」¹¹と述べているが、題名の変更理由には言及していない。プラハのドイツ語作家パウル・レップン Paul Leppin は1922年6月18日の記事で、1912年にアルフレート・ケル Alfred Kerr が表現主義の雑誌『パン』Pan に初めてEl Hor / El Ha の作品を載せたと書いている。¹² El Hor / El Ha は世に出たばかりの新人であり、『シーソー』は彼女のデビュー作であった。レップンは1914年12月7日の記事の中で「彼女はペーター・アルテンベルク以来、この上なく繊細で精緻な短編を書く才人だ」Sie ist seit Peter Altenberg das feinste und subtilste Genie der Skizze¹³と評価しているが、それにしてもひとつの出版社が同じ年に廉価版ではない新人の作品を2冊出版することは考えにくい。『シーソー』は50ページの薄い本であり、『マッチ』、『シーソー』は同種の短編を集めた作品集であるので2冊に分ける必然性がない。雑誌『ザトゥルン』は毎号、自社で出版した書籍の広告を載せており、『マッチ』が出版されていればその広告を載せるはずであるがそうした広告はない。さらに1911年から1965年までに出版されたドイツ語の書籍一覧にもEl Hor という筆名では『シーソー』の名前しか出てこない。¹⁴ こうした状況からEl Hor の名前で出版された作品集はやはり『シーソー』1冊で、『マッチ』という書名の本は出版されなかったと考えられる。しかし契約書にある『マッチ』という題名の作品集が、なぜどのような経緯で『シーソー』として出版されたのか。ズーアビア

は主として作家の本名を探す目的でこの契約書にアクセスしているが、ザトゥルン出版社の契約書を集めたA:Mに収録されている他の契約書を検証した痕跡はない。ズーアビアだけでなく他の研究者たちも『マッチ』から『シーソー』への変更に関して言及していない。次章ではEl Hor / El Ha 以外の作家の契約書も手掛かりにしつつ、この問題を掘り下げてみたい。

3. 書名のない契約書

マールバッハに残されたマイスターと作家たちとの契約書の中には、契約書を作成した後で書名を書き直したものがある。オットー・ヒネルク Otto Hinnerk は1912年にザトゥルン出版社との間に、ある喜劇作品の契約書を作成した。その後、題名が変わり、タイプ打ちされた元の書名『頑なな心』DAS STEINERNE HERZ(注:大文字での表記)を消して新しい書名がペン書きで書き込まれている。¹⁵ 作家と出版者マイスターの自筆サインのある契約書は新しく作り直すのではなく必要な箇所を訂正して使われていた。¹⁶ そのため『マッチ』名の契約書が現存する以上『シーソー』名の契約書が新しく作られた可能性は極めて低く、『マッチ』名の契約書がそのまま『シーソー』の契約書として保管されていたと考えられる。

この契約書で不思議な点は、出版する作品の書名が記されていないことである。契約書を読み直してみると「彼女の『マッチ』という題名で書かれた短編集の出版権」(下線部筆者)と書かれているだけで『マッチ』という書名の短編集を出版するとは書かれていない。他の作家の契約書では、出版される書名は大文字でタイプ打ちされているが、El Hor / El Ha との契約書には「STREICHHÖLZER」という大文字の書名がない。契約時に書名が決まっていなかった可能性はあるが、そうであれば後に契約書に書き加えられて然るべきである。なぜ出版される書名が書かれていないのか? 書名はいつ決まったのか? なぜ後から書名を書き加えていないのか? 契約書の日付とこの本の出版時期を手掛かりにこれらの疑問を考えてみよう。

契約書のサインの日付は1913年5月29日と6月1日であった。2ヵ月後の8月9日にはパウル・マイヤー Paul Mayer による書評¹⁷が出ていることから、本の完成から書評を載せた新聞の印刷までの日数を差し引くと、契約書締結から本の完成までの日数は、せいぜい1か月半程度ではないだろうか。確かに19世紀の60-70年代ごろに回転式印刷機が開発されて以来、技術革新が進み大量の印刷が可能になった¹⁸と言われている。しかし雑誌『ザトゥルン』に載せられたグロースベルガーの挿絵の下に記載されているように、その多くがリノリウムや木版の版画であり、『シーソー』の挿絵も表記はないものの同様の技法の作品である。この挿絵を製作する時間に加えて『シーソー』4ページ目に「ルードルシュタットのメーニケ・ヤーン社で500部を印刷」 Gedruckt in 500 Exemplaren bei Mänicke und Jahn in Rudolstadt とある通り、印刷を外注していたために輸送にかかる時間も必要になってくる。こうした様々な背景を考えると、契約書の作成後に書名が決まったとは考えにくい。契約書作成時にすでにマイスターと、挿絵画家であり共同編集者でもあったグロースベルガーとの間で、書名は『マッチ』ではなく『シーソー』とすることが決められ、この書名に合った挿絵に着手していたのではないか。場合によっては挿絵に合わせて題名が決められた可能性もある。

短時間に対象を細部まで明るく照らし出す「マッチ」は彼女の作品の特徴である「短い散文」と「精緻な描写」を象徴する題名である。しかし『シーソー』という書名にはこうした作品の特徴との共通性がない。¹⁹ 『影』の挿絵同様、グロースベルガーの挿絵の多くは女性がモチーフであり、『マッチ』という題名はグロースベルガーの絵心に点火しなかったのではないか。そのため敢えて書名抜きで契約書を作成し、書名と装丁は編集者たちに一任されたと筆者は考える。先に言及した1913年夏に出た『シーソー』の広告の中に「印刷と装丁は内容にぴったり合っている」 Druck und Einband schmiegen sich dem Inhalt an という一文²⁰を入れていることから、『シーソー』と

いう書名と書名に合った挿絵（図版参照）で飾られた、編集者たちには納得の行く出来栄の本が仕上がったと思われる。

4. 契約書に見られる不備とその理由

書名のほかにもこの契約書にはいくつか不思議な点がある。契約書では本の価格は2.50マルクとされていたが、すでに言及した通り実際には2マルクで販売されていた。販売価格は作家の収入に関わる重要事項であり、契約書が訂正されていない事は誠に不思議である。またこの本は販売途中での値下げではなく、8月の発売当初から2マルクで売り出されている。『シーソー』とグロースベルガーの『肺の中への旅』 Die Reise in die Lunge が、いずれもページ数が少ない割に値段が高すぎると批判している記事（1913年12月）²¹があることから、2.50マルクという値段はそもそも現実的な販売価格ではなかったと思われる。

さらにこの契約書では作家名がすべて「El hor」と「h」が小文字打ちされている。El Horの筆名で発表された新聞、雑誌も含めた作品全ての作品のオリジナルに当たったが「El hor」の名前で発表された例はない。また作者自身もこの契約書で「El Hor」とHを大文字書きでサインしているので、本来「El Hor」と綴るべきである。一か所の間違いであればタイプミスが見落とされたとも考えられるが、4か所に出てくる名前の全てが「El hor」と打たれている。その理由は不明である。ちなみに、誤解の無いように付け加えると、この契約書では数か所にタイプミスが見られるが、単純な打ち間違いはきちんと訂正されている。

こうした不備も含め通常は訂正が必要であると考えられるのに、契約書が後に訂正されることがなかった理由は何なのか。これに関連して、レッピンが書いた1914年12月7日の記事は注目に値する。彼はこの筆名の陰に「我々プラハの人間がよく知っている若い婦人」 eine junge, uns Prager wohlbekannte Dame が隠れているという噂があることに言及している。²² これをレッピンは否定せず、同じ記事の別の個所でも、『シーソー』が「一人の若い女性のデビュー作品」 Erstling

einer jungen Frau であると書いている。しかし 1922 年 6 月 18 日の「El Ha とは誰か?」という書き出しで始まる一文の中では、レッピンは「彼女はしっかりとその筆名の後ろに隠れてしまっている、自分にはそれに触れる資格はないと思う」²³ として作家の正体を明かすことはしなかった。実名を明らかにしうる唯一の資料と思われたこの契約書も筆名によるサインであり、El Hor / El Ha の実名を探し求めたズーアビアの失望は大きかった。²⁴ この若い婦人とは一体誰なのか。現在これに答えは出ていない。がおそらく本人や家族の社会的立場などの事情で表に出ることを避け、筆名に隠れて表現することを選んだ人であろう。筆名に隠れた人物との契約書は形式的なものであったため、現実的でない高めの価格設定で作成され、修正されることのないまま残されたのだと思われる。

5. 結び

作家本人はもちろん周囲の人間も作家の正体を知っていながら敢えて口外することがなかったために、作家についての情報は現在まで伝わることはなかった。未だに作品数も確定していない未知の作家であり、作品もすべてが評価できるものばかりではない。ズーアビア自身も El Hor / El Ha の作品の真髄はレッピンが評価したように「短く精緻な描写」にあり、長めの作品やメルヒェンと題された作品の出来映えは短編には及ばないと言っている。²⁵ 筆者も El Hor / El Ha の真価は、ごく短い作品の中にきらめく緻密な描写力にあると考えている。確かにマイナーな作家のひとりではあるが、El Hor / El Ha の存在自体が未だにはほとんど知られていないのは残念なことである。

筆者がこの作家に取り組むことになったきっかけは、注 1 にあげた Vollmer の『赤毛のかつら』Die rote Perücke とする表現主義の女性作家たちの散文作品を集めたアンソロジーの中で、El Hor / El Ha の作品に出会ったことだった。そこでズーアビアのテキストを知り、入手し後書きに書かれている内容を検証した。現在すべての研究者が参考に使っているズーアビアの編集した作品集

は、研究資料として使うには限界があった。111 ページのペーパーバックの本という小さすぎる容量に、彼のそれまでの研究の成果、資料、作品一覧なども詰め込んである為に、この作品集で読むことのできる作品は、現在見つかっている作品数の半数以下となっている。研究者はズーアビアの作成した作品一覧を手掛かりに各自、雑誌や新聞に載った作品を集めねばならない。今後さらに新たな資料の発掘や、より詳しいテキストの作成が待たれるところである。拙稿がこの無名の作家への関心を喚起するきっかけとなれば幸いである。

【注】

(テキスト)

- El Hor: Die Schaukel. Skizzen von El Hor. Saturn-Verlag Hermann Meister, Heidelberg 1913. (所蔵: Universitäts- und Stadtbibliothek Köln, Sign.: B1932)
- El Ha: Schatten. Hermann Meister Verlag, Heidelberg 1920. (所蔵: Deutsche Nationalbibliothek, Sign.: SA432-35/38)
- El Hor / El Ha: Die Schaukel. Schatten. Prosaskizzen. Hrsg. v. Hartwig Suhrbier. Göttingen 1991.

(資料)

- Saturn, 1.1911-5.1919 / 20. (所蔵 Deutsches Literaturarchiv Marbach)
 - Nachlass (A: Meister) 本文中に言及した契約書はここに所蔵されている。本文、及び注においては A:M と記す。(所蔵 Deutsches Literaturarchiv Marbach)
 - Nachlass (H: Meister, Hermann) この出版社から出された作品についての新聞、雑誌などに載った広告、書評などの記事の切り抜きなどが収録されている。同じく H:M と記す。(所蔵 Deutsches Literaturarchiv Marbach)
- なお A:Meister と H:Meister, Hermann という表記はマールバッハの資料の通りの表記である。参照 <https://www.dla-marbach.de/katalog/bestaende/> (最終確認 2016 年 2 月 13 日)

1. El Hor や El Ha という筆名は、性別も判別しにくく匿名性の高い筆名であるが、この作家が女性であることは、パウル・レッピン Paul Leppin やアルトゥーア・ジルバークライト Arthur Silbergleit の書評やザトゥルン出版社の広告にも明示されており、当時から秘密ではなかった。また現在ではこの作家が女性作家であることは定着している。

- 参照 Die rote Perücke. Prosa expressionistischer Dichterinnen. Hrsg. v. Hartmut Vollmer, 2. aktualisierte Aufl. 2010, S.175.
2. Martina Lücke: Kampf der Geschlechter: Entfremdung und Lustmord in expressionistischen Dichtung von El Hor / El Ha. Seminar: A Journal of Germanic Studies. 46, no. 2 (2010), S.113.
 3. El Hor / El Ha の作品数に関しては、まだ未発見の稿や作品が存在する可能性があることに Suhrbier 本人が言及している。Suhrbier: S. 97 を参照。
 4. Paul Raabe (hrsg. v.): Index Expressionismus: Bibliographie der Beiträge in den Zeitschriften und Jahrbüchern des literarischen Expressionismus. 1910-1925/ im Auftrage des Seminars für Deutsche Philologie der Universität Göttingen und in Zusammenarbeit mit dem Deutschen Rechenzentrum Darmstadt. Bd.1, Teil1. Nendeln 1972, S.531-534.
 5. Lücke: S.113.
 6. Rohland Krischke: Ein Meister seines Fachs. Börsenblatt für den deutschen Buchhandel. Jg.166 (1999), 87, S.17f.
ザトゥルン出版社は Saturn Verlag Hermann Meister と書かれるが、拙稿では Hermann Meister は省略して記載した。また下記の記事によるとマイスターが第一次大戦で出征することでザトゥルン出版社は業務を停止し 1919 年より出版を再開したとき「ヘルマン・マイスター出版社」Verlag Hermann Meister に名称を変更している。Börsenblatt für den deutschen Buchhandel. Frankfurter Ausgabe, Nr.32, 22. April 1960, S.634. 参照。1920 年出版の『影』は後者からの出版である。
 7. 小冊子シリーズの名前 Die Kleinen Saturnbücher はザトゥルン出版社の広告ページでも Kleine Saturn-Bücher, Kleine Saturnbücher など複数の表記があり統一されているわけではない。
 8. Georg Jäger (hrsg. v.): Geschichte des deutschen Buchhandels im 19. und 20. Jahrhundert. Bd.1: Das Kaiserreich 1870-1918, S.375.
 9. 彼女の作品は書名においても書評においても Skizze と表記されているので、「スケッチ風短編」と訳すべきなのだろうが、Paul Raabe はこの作家の短編作品の全てを Skizze としているわけではない。「散文」Prosa という分類をしているものもあり、拙稿では混乱を避けるために Skizze を一般的に「短編」と表記している
 10. ザトゥルン出版社の 1913 年夏の新刊書として『シーソー』を含めた 5 冊の広告が出ている。H:M にある「Z. f. B. Aug / Sept 1913」という書き込みから出典は Zeitschrift für Bücherfreunde の 1913 年 8 月 / 9 月号であり、さらに後日、文書館から提供された情報によると、5. Jahrgang, Heft 5/6, 1913, S.222.である。
 11. Suhrbier: S.97.
 12. Paul Leppin: Dichtung und Welt. Beilage zur „Prager Presse“ 18.06.1922, Seite II.
 13. Leppin: Prager Presse. 1914 年 12 月 7 日。H:M 所蔵のこの切り抜き記事には、手書きで日付の他には「Prag」とだけ記載されているが『プラハ新聞』Prager Presse の記事と思われる。
 14. Reinhard Oberschelp (hrsg. v.): Gesamtverzeichnis des deutschsprachigen Schrifttums (GV), 1911-1965. München 1976 -1981. Bd.31, S.455.
 15. Hinnerk は本名オットー・ヒンリクセン Otto Hinrichsen で署名している。契約書では印税率も手書きで 30%から 15%に訂正されている。
 16. 破損、汚損の場合も契約書を補修して使用している一例として、パウル・ハトヴァニー Paul Hatvani の契約書は破損か汚損のため中央部分を四角く切り取り、元の文章をタイプ打ちした別紙を裏から張り付けてある。
 17. Paul Mayer: Zwei Skizzenbücher. Berliner Börsen-C.という書き込みから掲載された媒体は Berliner Börsen-Courier という日刊紙である。
 18. C.H. Beck, Peter Sprengel (hrsg. v.): Geschichte der deutschsprachigen Literatur 1870-1900: von der Reichsgründung bis zur Jahrhundertwende. 1998, S.153.
 19. El Hor / El Ha は新聞や雑誌に作品を載せる際に、しばしば見出しをつけて複数の作品を載せている。1921 年 10 月 2 日付の『プラハ新聞』には、「小さな散文」Kleine Prosa という見出しの下、『浮浪者』Landstreicher、『自殺者』Selbstmörder など 4 作品が掲載されている。他に見出しとして見られるのは「人物」Personen、「出会いより」Aus den Begegnungen のように現実の 1 コマを切り取った作品を集めたことを示したものの、文字通り短い散文作品を表わす「小さな散文」Kleine Prosa、一瞬の時を切り取り短く描写することを表している「ペン描きの描写」Federzeichnungen、「線と点」Striche und Punkte、更に現実の投影である「影」Schatten、「シルエット」Shilhouetten などである。
 20. 注 4 参照。
 21. Arthur Luther による書評。St. Petersburger Zeitung. 1913 年 12 月 9 (22) 日。文書館によるとロシアの新聞でありユリウス暦で日付が書かれているため、カッコ内の 22 がユリウス暦の日付、カッコの前の 9 がグレゴリオ暦の日付である。
 22. Leppin: Prager Presse. 1914.
 23. Leppin: Prager Presse. 1922.

24. Suhrbier: S.90. Suhrbierは契約書の署名は本名でされると考えていた。A:Hにある契約書は実名がほとんどであるが、筆名でのサインがないわけで

はない。Hatvaniも実名の Paul Hirsch ではなく筆名 Paul Hatvani で契約書を作成している。
25. Suhrbier: S.97.



Die Schaukel 表紙の挿絵
(所蔵 USB Köln Sign.: B1932)